

直前一橋大地理

【2 回目】



問題

【1】

解答例

問1 >

問2

(1) 黄 = $2 - 5 - 8$ 高 = $3 - 6 - 9$

(2) 財の到達範囲の上限に変化がなく需要が増加したため、増大した需要を満たす必要と、財の到達範囲の下限が短くなり従来と同様の活動範囲での超過利潤が増加したため、定期市が立つ頻度は高くなった。(92字)

(3) 財の到達範囲の上限が長くなり、より遠方に移動することが可能となったため、様々な商品求めてより高次の中心地に出向く農民が増加したため商圈も拡大した。そのため、●の集落の商業機能が急速に成長した。(97字)

問3

(1) 電子商取引は商品の販売や購入のために移動する必要がないサイバースペースで行われるため、移動に要する時間や費用が不要となり、空間的な制約を受けなくなる。(75字)

(2) 財の到達範囲の上限が無限大に大きくなるため、需要が極端に少ない特殊な商品でも財の到達範囲の上限が下限を上回ることによって販売が可能となる。そのため消費者が購入する商品の種類は多様化する。(93字)

解説

《商業活動の立地論》

問1.

財の到達範囲の上限とは、ある商品を購入するために消費者が移動できる最長の距離のことであり、この距離以上に消費者は移動することができない。これに対して、財の到達範囲の下限とはその商品を供給する商業活動の経営が成立するために最小限度必要な有効需要（消費力を伴った需要）を含む範囲であり、この範囲内の消費者の購買によって経営が成立することとなる。このことから、財の到達範囲の上限が下限よりも大きい場合、消費者が固定した商業施設で商品の購入ができ、経営者もその施設の経営が可能となる。例えば、都心の大商業地区には大規模小売店舗の典型例の百貨店や各種の専門店が多く存在する。一般にこれらの商業施設で売買される商品は単価の高い高級品が多く、都心から離れた郊外などの商業施設では経営が成り立ちにくい。一方で、都心の大商業地区の百貨店や専門店などには近距離の消費者だけではなく、遠距離からの消費者も多くやってくる。これに対して、都心から離れた周辺部の町場の商店街などはどうであろうか。このような商店街で販売されているものは日用品や雑貨類が多く商品の単価も安い。また消費者も商店街近隣の人々が中心となるため、財の到達範囲の下限は前述の高級品などに比べて小さくなる。

問2. (1).

本文によると定期市の立つ頻度は“1旬に3日”となっていることから、10日間のうちに3回定期市が立つことになる。また商人は“下1桁が0の日、本拠地で休息をとった”と設問文

で説明されているので、1つの集落の定期市は1-4-7, 2-5-8, 3-6-9のいずれかの日に定期市が立っている。高店子と黄竜場の集落に出向く商人は中和鎮を商業活動の本拠地としている。また、本拠地においても“商業活動を行う日も複数回あった”と設問文に説明があることから、本拠地の中和鎮で定期市が開かれる1-4-7の日には中和鎮で商業活動を行っていたと考えられる。そのため、高店子と黄竜場で定期市が立つのは2-5-8, 3-6-9のいずれかとなる。また、高店子の集落の定期市には大麴舗を本拠地とする商人も出向いており、中和鎮の商人と同様に本拠地での活動も考慮すると、2-5-8の日は大麴舗で商業活動を行っているため周辺の集落への移動は不可能となる。したがって高店子に定期市が立つのは3-6-9の日となる。同様に黄竜場の集落には中興鎮の商人もやってくるため、黄竜場の定期市は、中興鎮に定期市の立つ3-6-9の日ではなく、2-5-8の日となる。

(2).

設問文によるとこの地域の“人口密度は増大し、また各農家での自給経済が衰退した”とあることから、一定の空間範囲内の商品需要は増大することになる。それにしたがって財の到達範囲の下限が短くなり、商人も以前よりは移動する範囲を縮小しても経営が成り立つようになる。これに対して“交通手段も一人当たりの所得も変わらない”ために、財の到達範囲の上限には変化がなく、農民は以前と同じ集落の定期市で商品を購入することになる。商人は農民の増大した需要を満たすために定期市での商業活動を頻繁に行うことになり、結果として商人の利益は以前よりも大きくなり、定期市の立つ頻度も増加する。

(3).

所得水準の上昇と交通手段の改良などによって、財の到達範囲の上限は拡大することになる。したがって農民は以前には行けなかったより大規模の集落の●にまで買い物のために移動ができるようになる。●の集落にはより高級で多様な商品があるため、○よりも●の集落での消費活動が活発化し、●の商圈の拡大と商業的機能の成長が進行する。

このような交通条件の改善に伴う都市の成長や衰退は日本でも見られた。地域内の高次の中心地が成長し低位の中心地が衰退する現象は高度経済成長期に顕著となり、県庁所在地に対する人口や諸機能の集中によって、かつては県内の地域中心都市としての機能を果たしていた他の小都市の衰退が進行した。これらの現象の背景には道路や鉄道などの整備とモータリゼーションの進行によって遠距離の都市への移動も容易になった結果、既存の地域中心都市の自立性が失われ、県庁所在地の都市圏へと組み込まれていったといえよう。

問3. (1).

問2の(3)の設問文中の“域内の交通手段が改良され”たとは、移動のために必要であった時間や費用が低減したことを意味する。その延長上にある究極形態とは、時間や費用が限りなくゼロに近い状態といえよう。インターネットを利用した電子商取引においては、供給側と需要側は共通のサイバースペースに存在するために、商品の販売と購入にかかる時間と費用はほぼゼロに近い。そのため、電子商取引においては空間的な制約は存在せず、交通手段が改良された究極の形態ということになる。

(2).

電子商取引においては、空間的な制約が存在しないため消費者は時間や費用を考慮することなく、インターネット上で世界のどこからでも商品を購入することが可能となる。また供給側

にとっては財の到達範囲の上限が無限大になるため、需要の少ない財の下限が著しく長い特殊な商品であっても利益を得ることができる。インターネット上の電子商取引においては、どんな商品でも、財の到達範囲の上限が無限大に近いと、少しでも需要がある限り、財の到達範囲の上限が下限を上回ることとなるからである。その結果、従来の固定的な商業施設よりも多様性に富む商品が流通することになる。

【配点の目安】（配点 50 点）

問 1 （2 点）

問 2 （1）（各 2 点／計 4 点）

（2）（11 点）

①財の到達範囲の上限に変化がなく …… 2 点

需要が増加した …… 1 点

②（①の結果）増大した需要を満たす必要 …… 2 点

③財の到達範囲の下限が短くなり …… 2 点

従来と同様の活動範囲での超過利潤が増加した …… 2 点

④定期市が立つ頻度は高くなった …… 2 点

（3）（11 点）

①財の到達範囲の上限が長くなる …… 2 点

②（①の結果）より遠方に移動することが可能となった …… 3 点

③（②の結果）様々な商品を求めてより高次の中心地に出向く農民が増加したため商圈も拡大した …… 3 点

④●の集落の商業機能が急速に成長した …… 3 点

問 3

（1）（11 点）

①電子商取引は商品の販売や購入のために移動する必要がある …… 3 点

②サイバースペースで行われる …… 2 点

③（①・②の結果）移動に要する時間や費用が不要となる …… 3 点

（①・②の結果）空間的な制約を受けなくなる …… 3 点

（2）（11 点）

①財の到達範囲の上限が無限大に大きくなる …… 3 点

②（①の結果）

需要が極端に少ない特殊な商品 …… 2 点

財の到達範囲の上限が下限を上回ることによって販売が可能 …… 3 点

③（②の結果）消費者が購入する商品の種類は多様化する …… 3 点

【2】

解答例

問1 1990年代は日本やタイ・台湾からの完成車輸入が中心で、部品一式を輸入し、最終組立のみ国内で行う企業もあった。外資系企業も進出したが、価格が高かったため、この時期の販売台数は伸び悩んだ。2000年に中国から安い完成車が輸入されると、輸入額・販売台数ともに急増した。その後、低品質の中国車は売れなくなり、政府による輸入規制や国内産業育成策によって全体の販売台数・完成車の輸入も激減した。一方、外資系企業はコスト削減をはかって廉価モデルを投入し、また規制撤廃による市場拡大も見られたため、販売台数は再び増加した。(250字)

問2 ① アメリカ合衆国 ② 日本 ③ 中国 ④ 韓国

問3 フィリピン。フィリピンの輸出品は他のASEAN諸国と競合するため、ベトナムのフィリピンからの輸入額が少なく、フィリピンは輸出用商品作物の栽培を偏重したことから食料自給率が低く、ベトナム産の米を輸入することで、ベトナムからの輸入額が多くなっているから。(125字)

解説

《ベトナムの経済》

複数の統計資料を読み解き、原因を含めて事象の経過を説明するという、一橋大に典型的な出題である。また特定の発展途上国を取り上げ、経済動向を概観するという内容も一橋大では頻出である。

問1.

オートバイは、多種多様な素材を用いた多くの部品からなり、技術力に乏しい発展途上国では、まず部品キットを輸入して最終組立のみ国内で行う形態から、国内生産を行う輸入代替型に転換する。

ベトナムのオートバイ産業は、1990年代から本格化している。台湾や日本の自動二輪車メーカーを誘致し、国内産業育成のため部品からの国内生産を求めたが、まだ国民の購買力は低く、十分な販売台数が望めないため少量生産で高コストを余儀なくされた。この時期は輸入中古車の人気を博しており、売れ行きは低迷した。

2000年、中国から圧倒的に安いバイクが輸入される。1990年代末に不況で在庫過剰となった中国側の事情と、中古車並みの価格で大量に販売して稼ごうというベトナム国営企業の利害が一致したのである。これによりバイクは低所得者層にまで急速に普及した。

しかし中国車は、低品質のため人気は急落し、事故や渋滞も増加したため、政府は輸入規制の強化や登録台数の制限を行った。日本や台湾から進出していたメーカーは基本設計や部品調達から見直し、海外部品メーカーの進出を促したり、国内部品メーカーに技術指導したりしてコスト削減を図り、中国車の価格から大幅に値下げした新車種を発売、シェアを挽回した。2003年以降、販売台数のグラフが伸びるのに対して輸入額が停滞していることから、国内調達部品の利用率が上昇していることが推察できる。

問2.

ベトナムは工業発展が著しく、先進国への輸出も増加しているため、輸出ではアメリカ合衆

国やEU、日本などが上位に入ることが考えられる。しかしまだ国民の購買力は低く、輸入先は新興国が中心となることから、輸入額で上位に入る“③”は中国、輸出先で1位であったが、輸入額が少ない“①”はアメリカ合衆国と考えられる。“②”は以前より輸出・輸入ともに多いことから日本、“④”はEUやASEANにも加盟していない国で、日本と同程度の輸入額であることから、アジアNIEsの一員である韓国である。

問3.

輸出入額とも連続トップの“⑤”はASEAN随一の経済力を誇るシンガポールである。逆に輸出7位の“⑧”は経済規模がごく小さいラオスである。残る“⑥”と“⑦”はタイかフィリピンであるが、ベトナムの輸入超過となっている“⑦”が、工業製品の輸出が盛んなタイ、残る“⑥”がベトナムからの輸出額が輸入額を上回るフィリピンである。

フィリピンでは、一握りの地主が広大な農地を持つ大土地所有制が今も残る。大農園に代々住み込む土地を持たない農業労働者が、不在地主が商社と契約した輸出用商品作物を栽培する。フィリピンのヤシ油、バナナ、パイナップルなどは世界有数の生産量であるが、主食の米の生産は人口増加に追いつかず、輸入に頼っていた。工業化も遅く、近年は輸出総額がベトナムを下回り、人口の約1割（家族を含む）に達する海外出稼ぎ労働者からの送金が重要な外貨獲得源となっている。フィリピンの主要輸出品目は機械類、木製品、精密機械、野菜と果実、自動車などで、機械類はマレーシアやインドネシアなどと、自動車はタイと競合するため、ベトナムへの輸出額は少ない。

一方、ベトナムは北部のホン川と南部のメコン川の二大デルタが米の大産地で、高収量品種も普及し、二期作・三期作が行われる。ドイモイ政策の採用により、中国の生産責任制と同様の自由化が実施されて生産が拡大し、米の輸出量は世界でも上位にある。2000年代は、ベトナムからフィリピンへの輸出額の半分以上が米となっており、フィリピンにとっては最重要輸入品目となっていた。2010年代になると、ベトナムからの米の輸入は減少し、機械類の輸入が増加している。

【配点の目安】（配点 50点）

問1（26点）

①<1990年代に販売台数が少ない理由>

1990年代は日本やタイ・台湾からの完成車輸入が中心で、部品一式を輸入し、最終組立のみ国内で行う企業もあった …… 2点

外資系企業も進出したが、価格が高かった …… 3点

② 2000年に、中国から安い完成車が輸入される …… 3点

③（②により）輸入額・販売台数ともに急増した …… 3点

④その後、低品質の中国車は売れなくなった …… 3点

⑤政府による輸入規制や国内産業育成策 …… 3点

⑥（⑤により）全体の販売台数・完成車の輸入も激減した …… 3点

⑦<2000年代半ば以降の販売台数増加の理由>

外資系企業はコスト削減をはかって廉価モデルを投入した …… 3点

規制撤廃による市場拡大も見られた …… 3点

問2（各2点／計8点）

問3（16点）

- ①国名：フィリピン ……3点
- ②フィリピンの輸出品は他のASEAN諸国と競合する ……3点
- ③（②の結果）ベトナムのフィリピンからの輸入額が少ない ……3点
- ④フィリピンは輸出用商品作物の栽培を偏重したことから食料自給率が低い ……2点
- ⑤（④を一因として）ベトナム産の米を輸入する ……2点
- ⑥（⑤の結果）ベトナムからの輸入額が多くなっている ……3点



会員番号

氏 名